

コミュニティ同士の交流や、新参加者の参加を促進する仕組みづくり

災害x多国籍の文化が活きる 「ここに居よう」の場所づくり

こべっこナースが【ちいさなお世話でちょっと助かる】アイデア 神戸版「まちの保健室DX」を実装

長田のいいところからコミュニティ同士の交流や、新参加者の参加を促進する仕組みづくり

住民一人ひとりが健康と安心と実感しながら暮らすために、「ここに居よう」、「ちょっと相談」を社会資源と地域の適正技術を用いつつ涵養するための地域の仕組みの実装を提案する。

防災教育を受けた潜在看護師を中心とした女性、中心とした地元の最適な場所にリアルな拠点を設置し、バーチャル・遠隔技術の利活用によって、文化を超えて、「ちょっとたすかる」が増える仕組みをめざす。

こべっこナースが地域での活動をサポートし、その地域の防災・健康知識がスキルアップし、コミュニティ同志の交流で双方が助けあふ循環をつくる。

「まちの保健室」とは、阪神淡路大震災後、看護協会の活動としてはじまった、“生徒の相談や癒しの場として機能を果たしている「学校の保健室」のように、心や身体についての様々な気かりや問題を、誰でも看護職に気軽に相談することができる場と機能。開催場所は、駅・郵便局・公民館・病院・保育園等人が集まる様々な場所で開催。活動内容は、健康相談、子育て支援、介護相談やミニ講話等。(兵庫県看護協会)”といった活動である。

現在長田区では区内で看護学部をもつ神戸常盤大学が実施している。



- 1)【文化的問題】
 - 2)【健康・医療的問題】
 - 3)【日常的問題】
- のほけんしつ



「どこで」・「なにを」

SNSを含むバーチャル空間と拠点のリアル空間

・阪神淡路大震災から活動している市民団体との協力のほか、大学コンソーシアムを通じた防災や地域、気候変動など社会課題に関心が高いコミュニティふくめ、既におおくの地域活動をされている地元との交流の機会を頂きつつ。

・子育てや介護を担い、働きながら地域活動に参加する女性がインスタ・TikTokなどいつでもどこでも視聴、受信が可能なメディアで情報発信と交流